

ダイズベと病抵抗性の品種及び系統間差

古川農業試験場

1 取り上げた理由

ダイズベと病は、葉および子実に発生する病害で、本県でも例年発生の見られる病害である。しかし、本病に関する知見は少ない。そこで、本県における大豆奨励品種及び新系統の葉及び子実における発生について調査したところ、各品種または系統の本病に対する抵抗性程度が明らかとなったので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 葉、子実におけるべと病発生には、ともに大きな品種・系統間差および年次間差がある(図2)。
- 2) 本県における大豆奨励品種の比較では、「ミヤギシロメ」、「タンレイ」、「コスズ」の順でべと病粒(被害粒)発生が多い。一方、「タチナガハ」及び「あやこがね」では発生が認められない(図1)。
- 3) 大豆開花期の葉におけるべと病病斑は、中位葉に集中している(図3)。

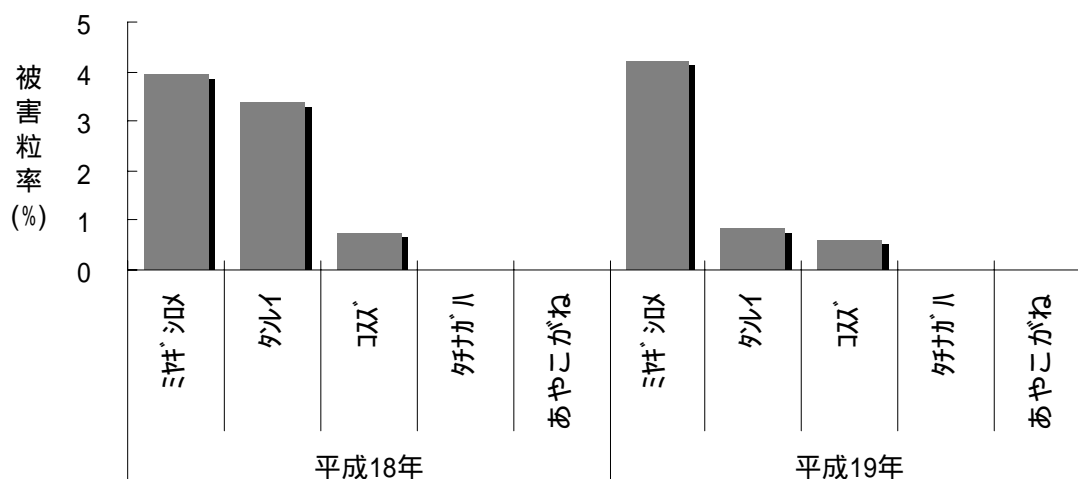


図1 宮城県奨励品種における年次・品種別被害粒率

3 利活用の留意点

- 1) 本結果は、平成18年及び平成19年、場内の奨励品種決定ほ(6品種10~12系統)における試験の結果である。
- 2) ベと病に対する防除は行っていない。

(問い合わせ先: 古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

大規模水田輪作におけるダイズの総合的有害生物管理(IPM)のための主要病害虫制御技術の開発 (平成16~20年度)

2) 参考データ

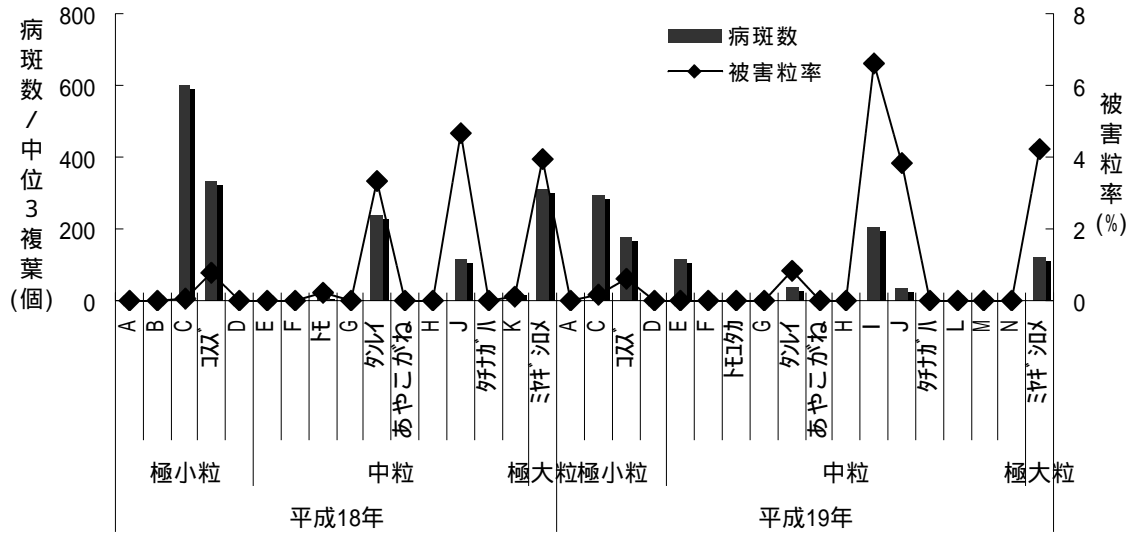


図2 病斑数と被害粒率の関係

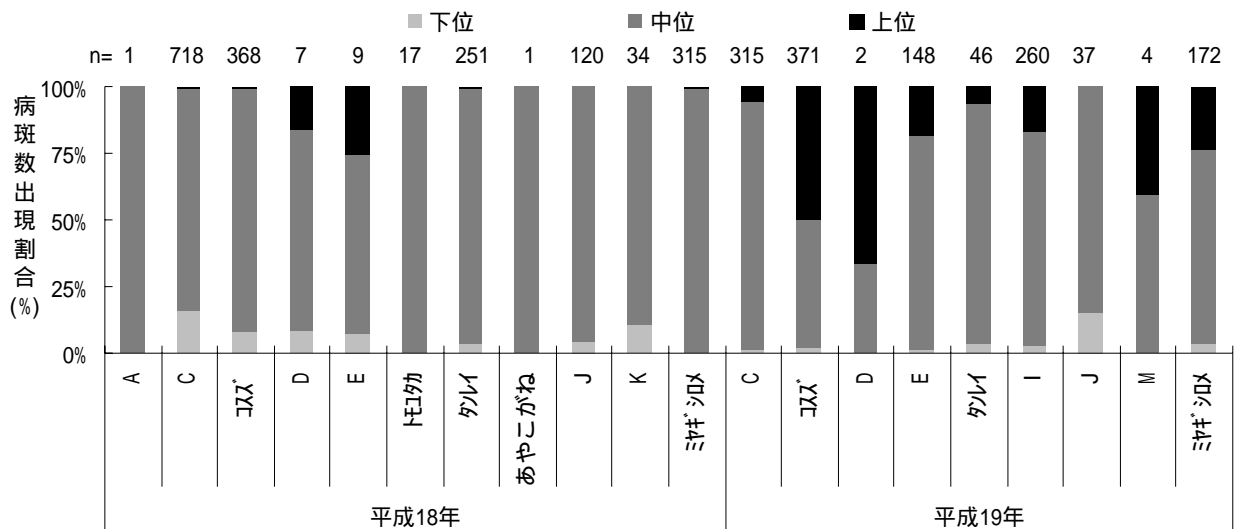


図3 葉位別病斑出現割合

注1) アルファベットは系統 注2) nは病斑数 注3) 開花期調査

3) 発表論文等

a) その他

a) 北日本病害虫研究会報第59号(2008)に投稿予定